



令和6年2月1日

目黒区立第二上目黒保育園長

3歳児クラスが釣り堀にたくさんの魚を放ち、お客さんを待っています。園内でお店やさんごっこを開催した日のことです。『にかめ（第二上目黒）銀行』でおろしたお金を持って行くと、一番長い釣竿を手渡されました。狙った魚をうまく釣れずにいると「どの魚が釣りたいですか」と釣りやすいように位置や向きを変えてくれたりして至れり尽くせりです。全ての店を巡り再び釣り堀に行ってみると、2歳児や5歳児のお客さんで賑わっていました。子どもたちが持つ釣竿の長さが異なるので受付でのやり取りに目を向けると、年齢の小さいクラスには一番短い釣竿を、大きいクラスには2番目の長さの釣竿を、大人には一番長い釣竿を手渡しているのです。店員、お客さんそれぞれの役割を楽しむだけでなく、相手に合わせて道具を選ぶ姿に“来てくれる人たちにも楽しんでもらいたい”という思いを感じ取ることができ、子どもたちの成長を実感した一日でした。

他者の存在に気付いたり、相手を尊重する気持ちをもって行動出来るようになるためには、その子自身が十分に受け止められ、気持ちが満たされていることが大切です。子どもたちが好きな遊びを存分に楽しみ、心の満足の先に“その楽しさを誰かと分かち合いたい。自分たちの力で何が出来るかな”と思いを巡らせたのだろうと想像します。自分たちで準備し、自分たちで進めていくことは何にも代えがたい誇りとなって、どの店も活気に満ちていました。子どもたちの内面の成長に目を向け、保育の取り組みが全ての園児の確かな育ちとなっているか、今年度を丁寧に振り返る残り2か月間としていきます。

節分		4歳児クラス懇談会	
中旬	身体計測 避難訓練	3歳児クラス懇談会	

民舞大好き みんなあつまれ

荒馬、うらじゃ、虎舞等、一年を通じて様々な民舞に触れてきました。民舞は第二上目黒保育園の歴史の中で職員から職員、子どもから子どもへと受け継がれ、保育の一環として定着していることもあり、子どもたちにとって『踊り・笛・太鼓』は遊びの一部となっています。5歳児クラスが廊下でバチを手に練習用の太鼓を叩いていると、そこに4歳児クラスが馬になって加わり、その光景に合わせて保育士が篠笛を吹くと3歳児クラスも自然と混じり、荒馬踊りが始まります。週一度の『民舞の日』では様々な民舞に触れています。踊りと併せて由来を伝えることで子どもたちも一つひとつの動きの意味を知り、より一層楽しさを感じているようです。

子どもたちと一緒に踊る時間を大切に、民舞の楽しさや踊れる喜び、堂々と表現する自分を見てほしいという自信に満ちた気持ちを受け止めていくことで、心と体の成長を支えていきます。

気持ち良くて 心地良くて



つぼみぐみ（0歳児クラス）

子どもと向かい合い「いっぽんばし こ～ちょこちょ」と歌に合わせて手のひらに触れると、保育士の指の動きをじっと見えています。最後の「こちょこちょこちょ」に近付くと、くすぐられることを今か今かと期待して待っている様子が伝わってきます。少し焦らしてから脇の下や足の裏をくすぐると大笑いです。友だちと保育士のやり取りを見ていた子ども自然に笑顔がこぼれ“私もやりたい”と急ぎ足でやってきて同じように手を差し出しています。くすぐり遊びが大好きな子どもたちは一人また一人と増えていき、たくさんの小さな手が集まって触れ合いながら楽しんでいます。

一日を通して一対一で関わる時間、複数で楽しむ時間、どちらも大切にしながら、子どもたちとたくさん笑ってたくさん触れ合うことを楽しみます。



ちゅうりっぷぐみ（1歳児クラス）

「おしくらまんじゅう おされてなくな あんまりおすと あんこがでるぞ」というわらべ歌をご存じでしょうか。子どもたちは「先生、抱っこして」と温もりを感じてホッとしたい時があるようです。友達が保育士の膝に座っていると「わたしも」と何人もやって来るので、そんな時は思い切り腕を伸ばして抱きかかえ、左右に揺れながら「おしくらまんじゅう」と唱えます。「あんまりおすと あんこがでるぞ」の歌詞であんこを押し出すように“ぎゅっぎゅっ”とするとみんな一緒に抱きしめられた感じになり、楽しくて笑いが起きます。最近では、押し入れの中で子ども同士でのおしくらまんじゅうが始まり、触れ合う心地良さが周りの人との間でも広がっています。

おしくらまんじゅうのように穏やかな気持ちになれる触れ合い遊びを通じて、心に安心感を蓄えながら日々を過ごせるようにしていきます。



たんぼぼぐみ（2歳児クラス）

『大根抜き』というじゃれつき・ふれあい遊びを楽しんでいます。マットをつなげて長くしたものを畑に見立て、腹這いで横たわった『子どもたち大根』を保育士が引っっこ抜いていく遊びです。やる気満々の保育士が「よ～し、今日もたくさん大根を抜くぞ～」と張り切って腕まくりすると、子どもたちも「抜かれないぞ～」とマットをつかんで気合いが入ります。子ども大根を抜こうとすると「くすぐったいよ～」「うわあ、ぬかれちゃったよ」と残念そうに言いますが、抜かれることも嬉しくて楽しくて何度も畑に戻っていきます。触れ合うことによって温もりを感じたり“くすぐったい”という感覚を知ったり、友達とくっつく面白さを感じたりしている子どもたちです。

身をよじって大笑いするような楽しさも、ドキドキわくわくするような気持ちも、全てを喜びとして感じられるように、これからも様々な触れ合い遊びを楽しんでいきます。

